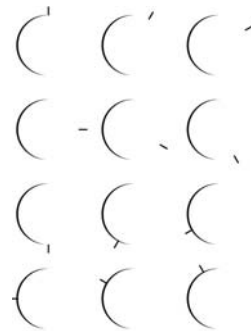


2007

# 修了生アンケート調査 分析結果報告書

平成19年3月

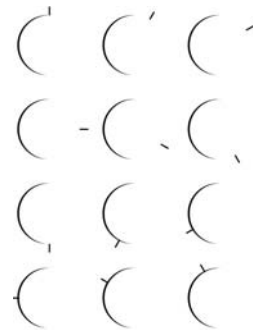


Aspect

株式会社応用社会心理学研究所

Institute of Applied Social Psychology + connect

# サマリー編

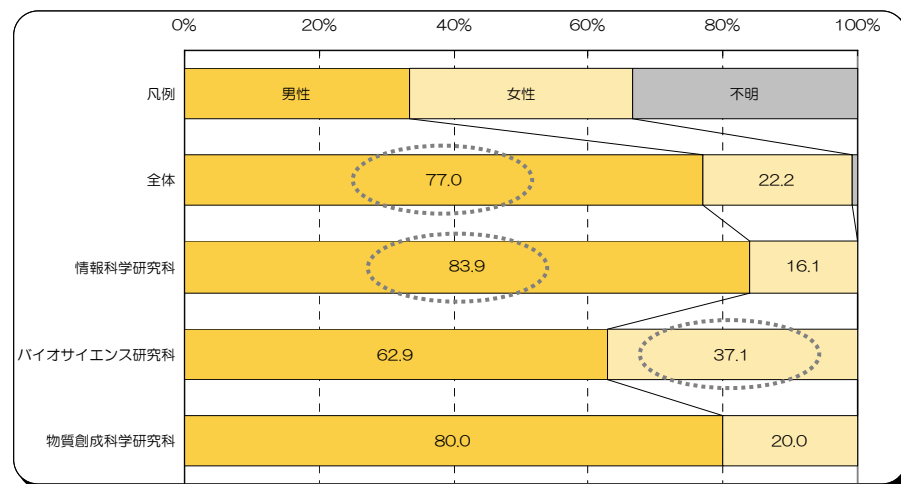


Aspect

株式会社応用社会心理学研究所

Institute of Applied Social Psychology + connect

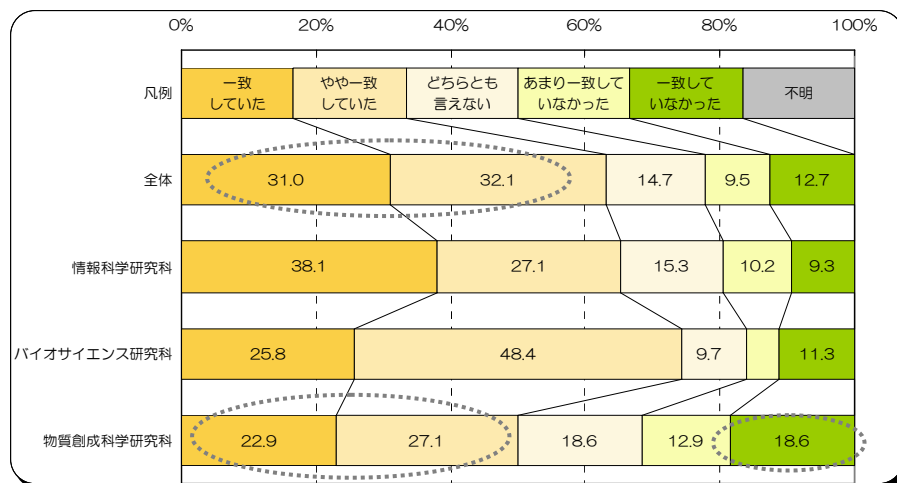
## ◆ 性別 &lt;研究科別&gt;



全体では、男性が《77.0%》と8割近くを占めている。

〔研究科〕別では『情報科学研究科』で「男性」の割合が最も高く《83.9%》、逆に『バイオサイエンス研究科』で「女性」の割合が最も高く《37.1%》となっている。

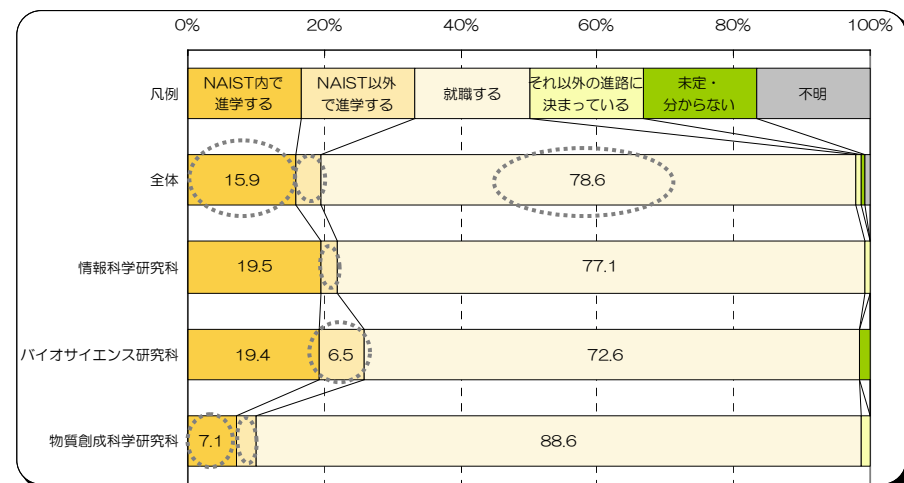
## ◆ 研究テーマ・内容の一致度＜研究科別＞



大学院進学時に、所属講座での研究テーマ・内容と、希望していたテーマ・内容が一致していたかどうかについては、全体では「一致していた」「やや一致していた」というものが、合わせて6割強となっている。

ただし、『物質創成科学研究科』では“一致していた”人の割合は最も低く、合わせても5割しかいない。また「一致していなかった」という人が2割近くになっている。

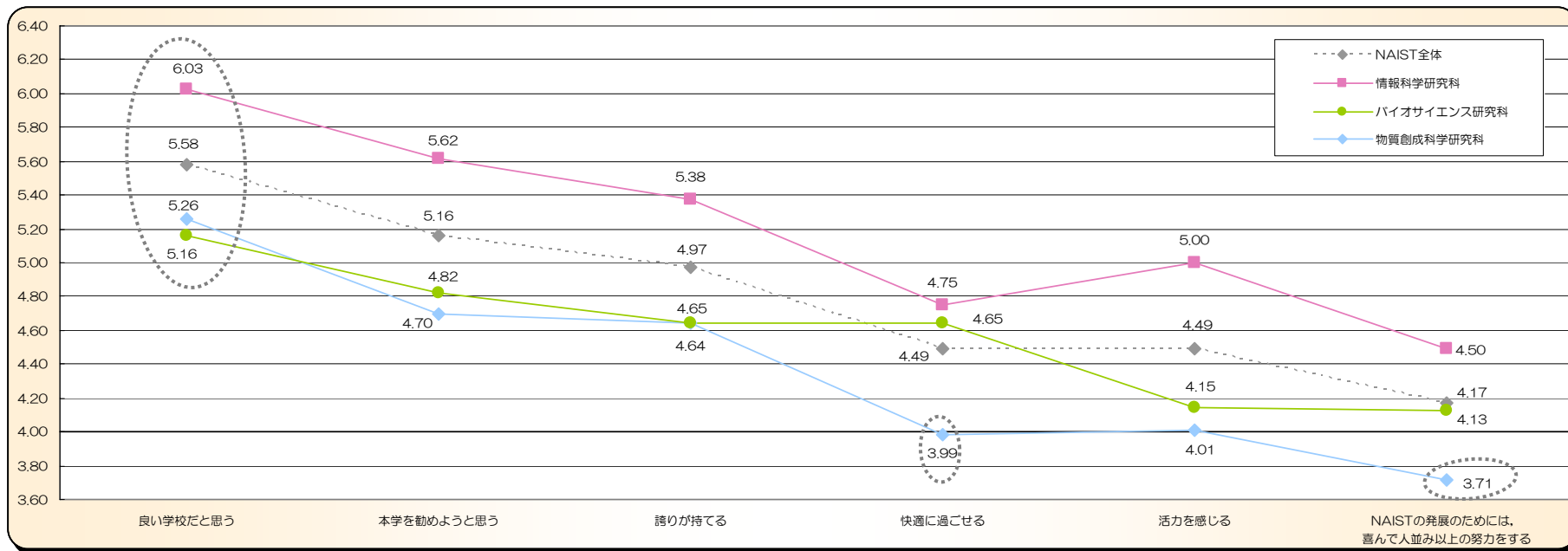
## ◆ 修了後の進路＜研究科別＞



修了後の進路は、全体では「就職する」人が《78.6%》と多く、「NAIST内で進学する」人は《15.9%》となっている。

[研究科] 別では『物質創成科学研究科』で「NAIST内で進学する」人の割合が最も低くなっている。また若干だが、すべての研究科で「NAIST以外で進学する」という人がいる。

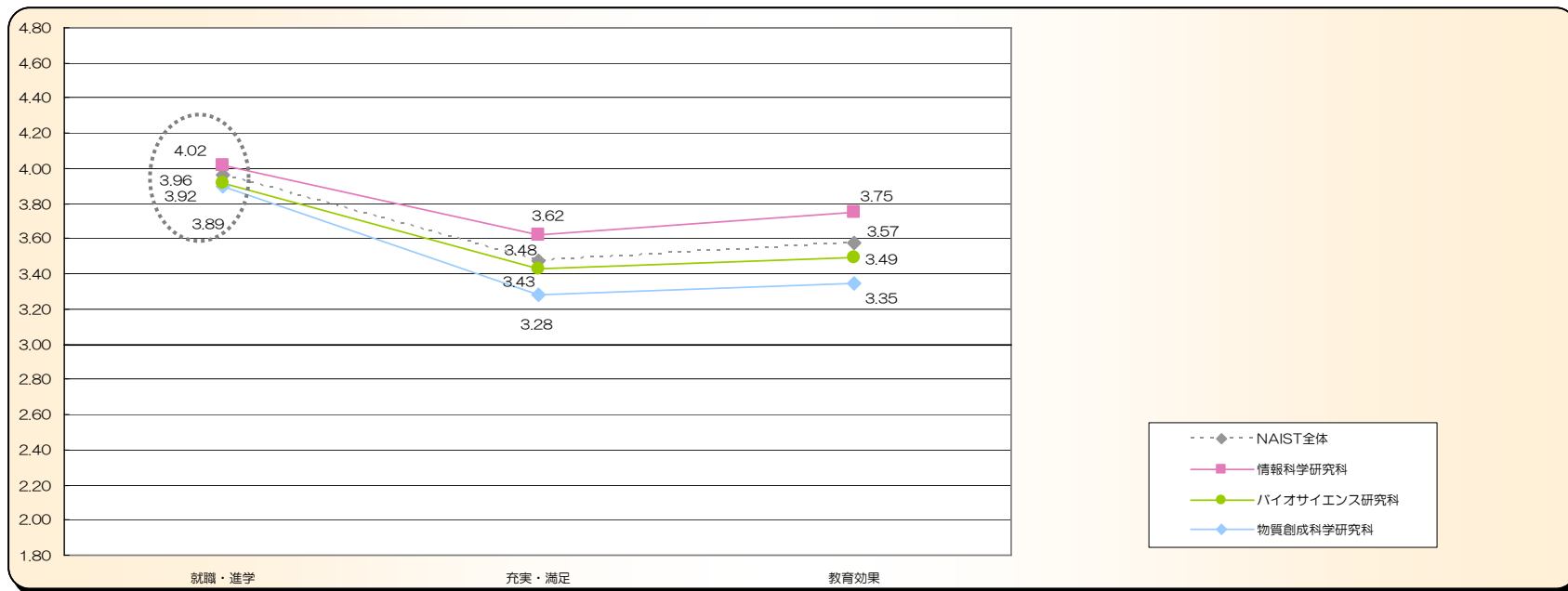
## ◆ 貴学（NAIST）に対する学校総合評価・コミットメント&lt;研究科別&gt;



全体では、「良い学校だと思う」の評価が最も高くなっているが、それに比べると「本学を勧めようと思う」「誇りが持てる」の評価はやや低くなる。また「快適に過ごせる」「活力を感じる」「NAISTの発展のためには、喜んで人並み以上の努力をする」の3項目では、さらに評価は低くなっている。

全体的に『情報科学研究科』の評価が高く、「快適に過ごせる」「NAISTの発展のためには、喜んで人並み以上の努力をする」では、特に『物質創成科学研究科』での評価が低い。

## ◆ 就職・進学と充実・満足，教育効果＜研究科別＞



全体では「就職・進学」での評価が最も高くなっている。

すべての項目で『情報科学研究科』が最も高く，つづいて『バイオサイエンス研究科』，『物質創成科学研究科』の順になっているが，「就職・進学」では差は非常に小さく，比較的バラツキのある「充実・満足」「教育効果」でもそれ程大きな差ではない。

## ◆ 学校総合評価・コミットメントと就職・進学／充実・満足／教育効果（合成変数）との相関

		Q17-1~3 就職・進学	Q2-1~4 充実・満足	Q2-5~7 教育効果	
学校 総合 評価 ・ コミット メント	Q1-1 本学を総合的に評価して、 良い学校だと思う	Pearson の相関係数	0.266	0.608	0.597
		有意確率（両側）	0.000	0.000	0.000
		N	247	250	250
	Q1-2 進学を考えている学生などに、 本学を勧めようと思う	Pearson の相関係数	0.280	0.594	0.580
		有意確率（両側）	0.000	0.000	0.000
		N	247	251	250
	Q1-3 本学の学生であることに 誇りが持てる	Pearson の相関係数	0.279	0.647	0.605
		有意確率（両側）	0.000	0.000	0.000
		N	247	251	250
	Q1-4 学校内で快適に過ごせる	Pearson の相関係数	0.187	0.499	0.425
		有意確率（両側）	0.003	0.000	0.000
		N	247	251	250
	Q1-5 学校全体に活力を感じる	Pearson の相関係数	0.092	0.473	0.521
		有意確率（両側）	0.150	0.000	0.000
		N	247	251	250
	Q1-6 NAISTの発展のためには、 喜んで人並み以上の努力をする	Pearson の相関係数	0.223	0.534	0.572
		有意確率（両側）	0.000	0.000	0.000
		N	247	251	250

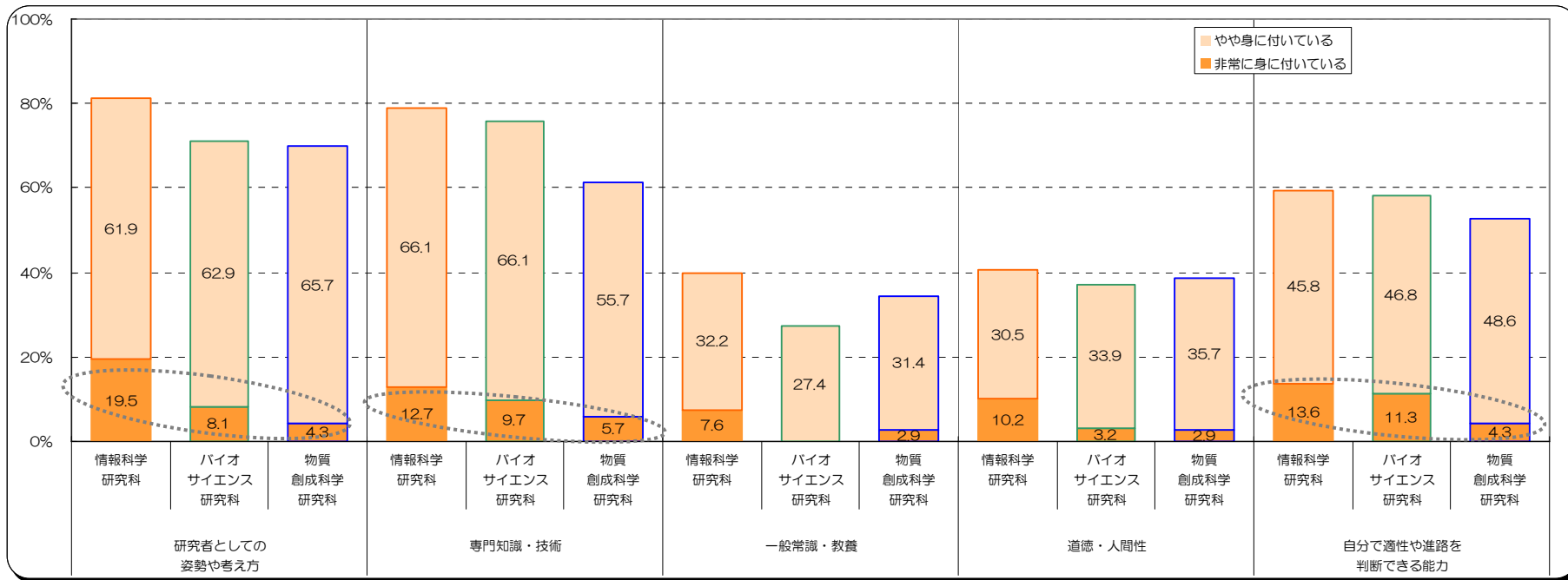
数値 = 0.4以上

数値 = 0.3以上0.4未満

数値 = 0.2以上0.3未満

「就職・進学」や「充実・満足」「教育効果」の各評価と学校の総合評価・コミットメントの間には相関が認められる。中でも、「充実・満足」と「教育効果」の評価はすべての学校総合評価・コミットメントの項目との間に非常に強い相関があり、学生生活の充実や満足、あるいは教育に対する評価が高い人ほど、NAIST全体の評価やコミットメントが高まることと、その関係が強いことが確認できる。

◆ 教育内容＜研究科別＞



「非常に身に付いている」「やや身に付いている」とする人の割合は“研究者としての姿勢や考え方” “専門知識・技術” で高く、“一般常識・教養” “道徳・人間性” では低い傾向がある。

また、比較的身に付いた人が多い“研究者としての姿勢や考え方” “専門知識・技術” “自分で適性や進路を判断できる能力” の3項目でも、「非常に身に付いている」とする人は2割に満たない状況である。

またこの3項目では「非常に身に付いている」という人が、いずれも『情報科学研究科』で多く、『物質創成科学研究科』で少なくなっている。



◆ 教育内容と教育効果との相関

		教育効果			
		Q2-5 NAISTでの教育は 良かった	Q2-6 NAISTの教育による 効果は大きい	Q2-7 NAISTに入学 したことによって 成長した	
専 門	Q3-1 研究者としての姿勢や考え方	Pearson の相関係数	0.301	0.360	0.487
		有意確率 (両側)	0.000	0.000	0.000
		N	250	250	250
	Q3-2 専門知識・技術	Pearson の相関係数	0.378	0.383	0.492
		有意確率 (両側)	0.000	0.000	0.000
		N	250	250	250
教 育 内 容	Q3-3 一般常識・教養	Pearson の相関係数	0.302	0.336	0.410
		有意確率 (両側)	0.000	0.000	0.000
		N	250	250	250
	Q3-4 道徳・人間性	Pearson の相関係数	0.312	0.358	0.345
		有意確率 (両側)	0.000	0.000	0.000
		N	250	250	250
	Q3-5 自分で適性や進路を判断できる能力	Pearson の相関係数	0.293	0.318	0.357
		有意確率 (両側)	0.000	0.000	0.000
		N	250	250	250

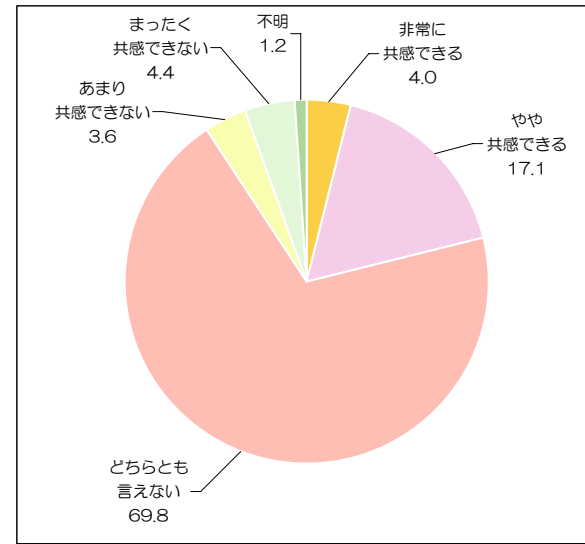
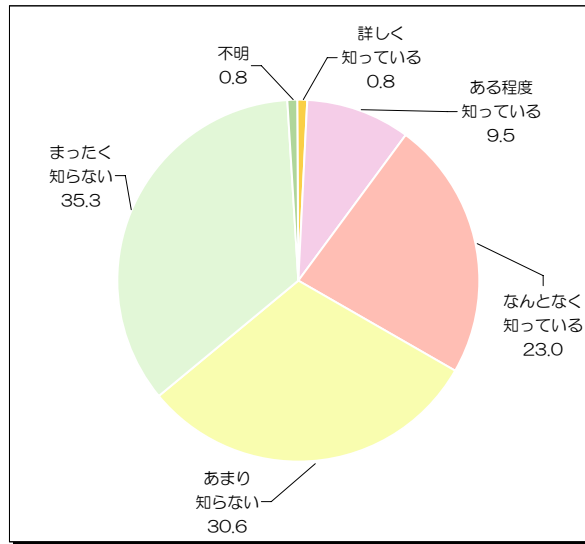
数値 =0.4以上  
数値 =0.3以上0.4未満  
数値 =0.2以上0.3未満

“教育内容”と“教育効果”には比較的強い相関が見られる。

いずれの教育内容でも“身に付いた”と思う人ほど、「NAISTでの教育は良かった」「NAISTの教育による効果は大きい」「NAISTに入学したことによって成長した」と思う傾向があると考えられる。

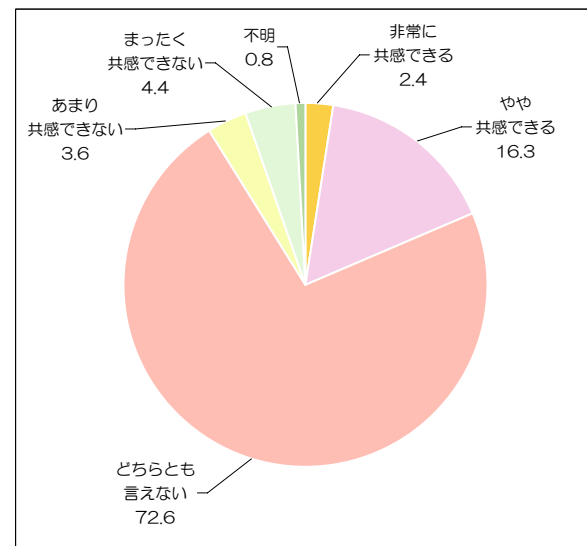
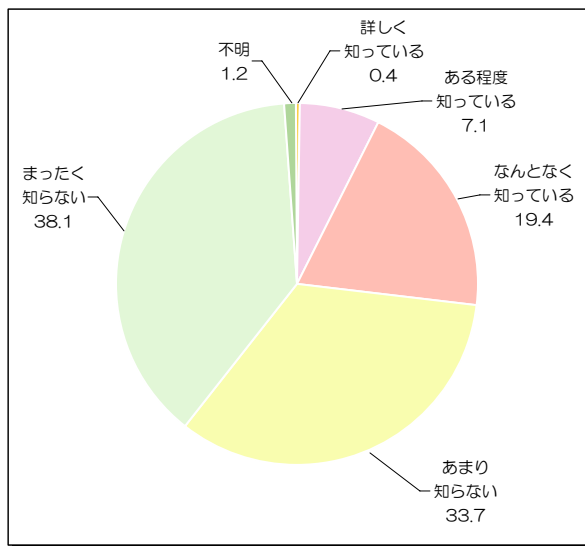
また、「研究者としての姿勢や考え方」「専門知識・技術」「一般常識・教養」について“身に付いた”と考える人ほどNAISTで“成長した”と感じるようである。

## ◆ 目的・理念や中期目標・計画の認知度及び共感度



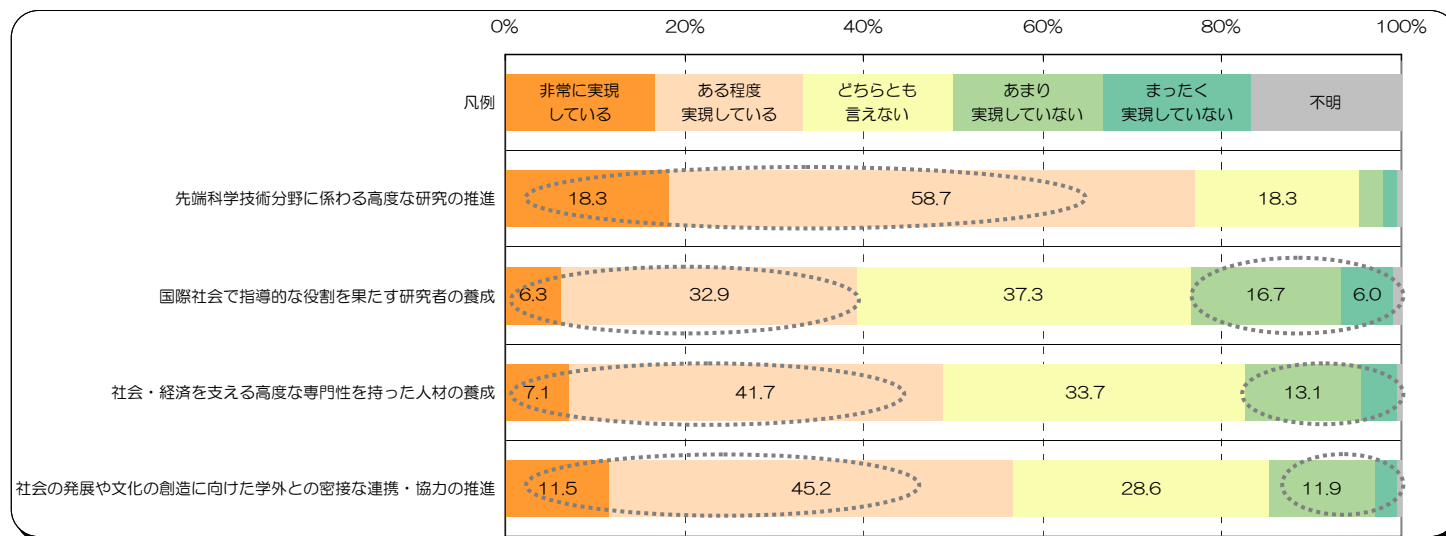
“目的・理念や中期目標・計画”について「詳しく知っている」「ある程度知っている」とした人は合計で1割程度で、「なんとなく知っている」人を合わせても3人に1人しか知らないことになる。また内容に“共感できる”という人は、「非常に共感できる」「やや共感できる」を合わせて2割程度しかいなかった。

## ◆ アドミッションポリシーの認知度及び共感度



“アドミッションポリシー”についても「詳しく知っている」「ある程度知っている」人は合計で1割以下、「なんとなく知っている」を合わせても4人に1人程度しか知らない。  
また“共感できる”という人は「非常に共感できる」「やや共感できる」を合わせても2割にも満たない結果であった。

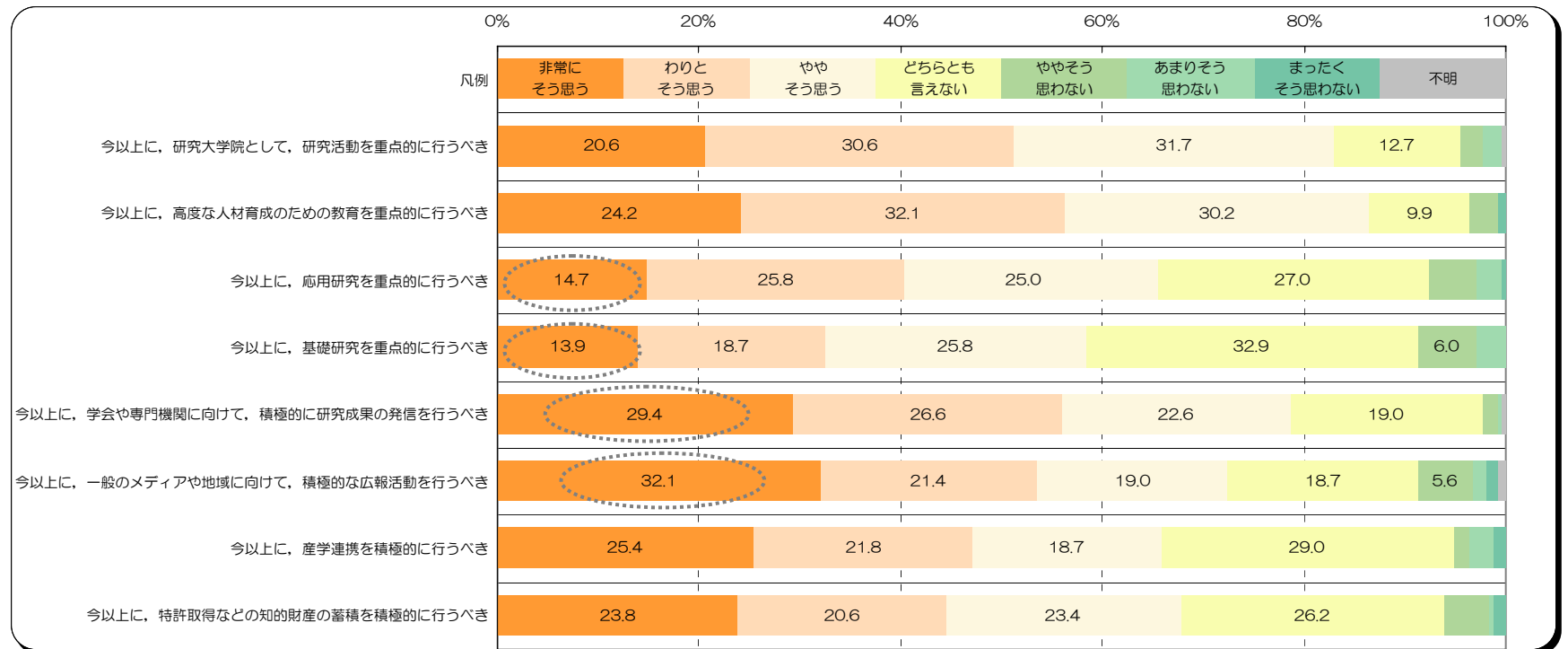
## ◆ 理念の現状評価（達成度合い）



4項目の中では、『先端科学技術分野に係わる高度な研究の推進』について“実現している”と考えている人が最も多いが、「非常に実現している」と「ある程度実現している」を合わせても8割には満たない。

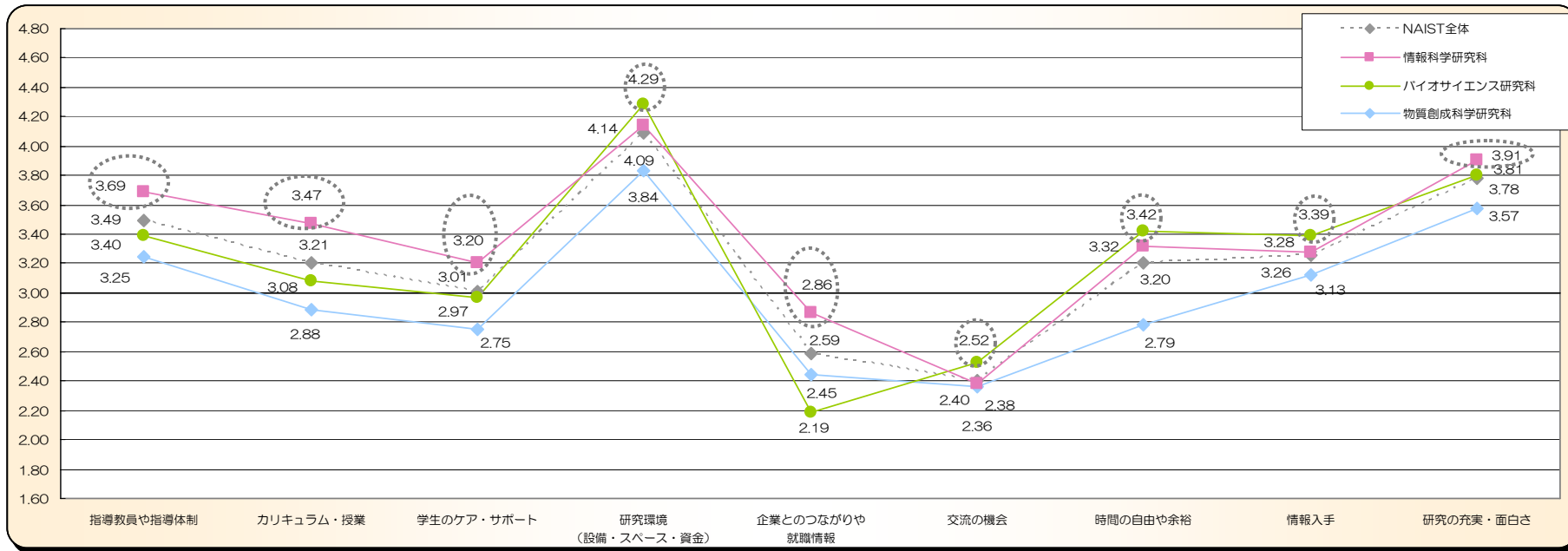
また、他の『国際社会で指導的な役割を果たす研究者の養成』『社会・経済を支える高度な専門性を持った人材の養成』『社会の発展や文化の創造に向けた学外との密接な連携・協力の推進』の3項目ではさらに“実現している”と思っている人の割合は減り、「非常に実現している」と「ある程度実現している」を合わせても4～6割弱しか“実現している”と思っている人はおらず、逆に“実現していない”という人が1～2割強になっている。

## ◆ NAISTの方向性



NAISTの方向性については、『今以上に、学会や専門機関に向けて、積極的に研究成果の発信を行うべき』や『今以上に、一般のメディアや地域に向けて、積極的な広報活動を行うべき』に対し「非常にそう思う」とする人が3割前後で最も多くなっている。逆に、『今以上に、応用研究を重点的に行うべき』や『今以上に、基礎研究を重点的に行うべき』に対して、「非常にそう思う」とする人はそれぞれ《14.7%》、《13.9%》と最も少なくなっている。

## ◆ 実態評価＜研究科別＞



全体では「研究環境（設備・スペース・資金）」の評価が最も高く、ついで「研究の充実・面白さ」「指導教員や指導体制」などとなっている。逆に、評価が低いのは「企業とのつながりや就職情報」「交流の機会」で、いずれも否定的な評価が上回る傾向にある。

また「指導教員や指導体制」「カリキュラム・授業」「学生のケア・サポート」「企業とのつながりや就職情報」「研究の充実・面白さ」では『情報科学研究科』での評価が最も高く、「研究環境（設備・スペース・資金）」「交流の機会」「時間の自由や余裕」「情報入手」では『バイオサイエンス研究科』での評価が最も高くなっている。

『物質創成科学研究科』はほとんどの項目で最も低い評価となっている。

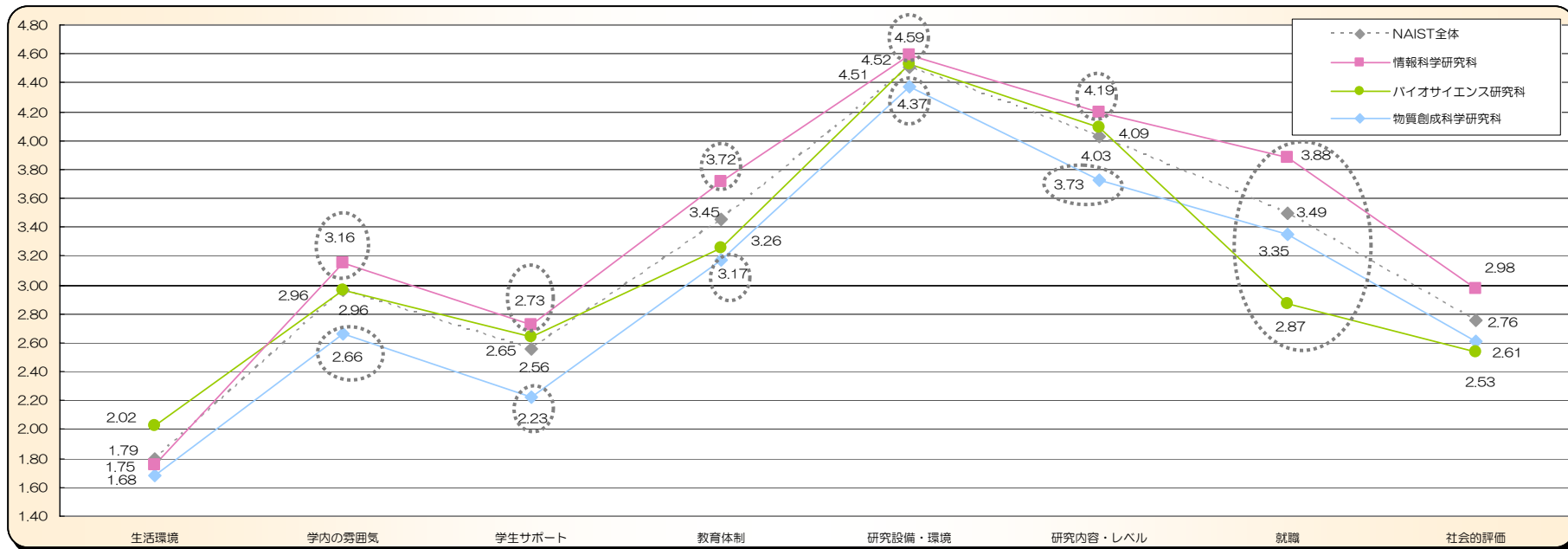
## ◆ 実態評価（合成変数）と学校総合評価・コミットメント／就職・進学・充実・満足／教育効果との相関

数値	=0.4以上
数値	=0.3以上0.4未満
数値	=0.2以上0.3未満

		学校総合評価・コミットメント						Q17-1~3 就職・進学	Q2-1~4 充実・満足	Q2-5~7 教育効果	
		Q1-1 本学を総合的に 評価して、 良い学校だと思う	Q1-2 進学を考えている 学生などに、 本学を勧めようと思 う	Q1-3 本学の学生で あることに 誇りが持てる	Q1-6 NAISTの 発展のためには、 喜んで人並み以上 の努力をする	Q1-4 学校内で 快適に過ごせる	Q1-5 学校全体に 活力を感じる				
Q 1 0 ・ 1 1 実 態 評 価	研究の充実・面白さ	Pearson の相関係数	0.502	0.481	0.576	0.480	0.379	0.317	0.415	0.624	0.569
		有意確率 (両側)	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
		N	250	251	251	251	251	251	248	251	250
	研究環境 (設備・スペース・資金)	Pearson の相関係数	0.401	0.481	0.445	0.384	0.345	0.281	0.330	0.422	0.418
		有意確率 (両側)	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
		N	249	250	250	250	250	250	247	250	249
	指導教員や指導体制	Pearson の相関係数	0.422	0.453	0.490	0.422	0.290	0.318	0.310	0.539	0.658
		有意確率 (両側)	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
		N	250	250	250	250	250	250	248	250	250
	カリキュラム・授業	Pearson の相関係数	0.348	0.375	0.419	0.469	0.359	0.363	0.213	0.365	0.675
		有意確率 (両側)	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.001	0.000	0.000
		N	249	249	249	249	249	249	247	249	249
学生のケア・サポート	Pearson の相関係数	0.462	0.341	0.410	0.441	0.401	0.435	0.193	0.417	0.502	
	有意確率 (両側)	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.002	0.000	0.000	
	N	247	248	248	248	248	248	245	248	247	
情報入手	Pearson の相関係数	0.257	0.206	0.290	0.286	0.269	0.159	0.207	0.264	0.323	
	有意確率 (両側)	0.000	0.001	0.000	0.000	0.000	0.012	0.001	0.000	0.000	
	N	247	248	248	248	248	248	245	248	247	
交流の機会	Pearson の相関係数	0.272	0.274	0.233	0.323	0.209	0.267	0.167	0.383	0.319	
	有意確率 (両側)	0.000	0.000	0.000	0.000	0.001	0.000	0.008	0.000	0.000	
	N	250	250	250	250	250	250	248	250	250	
企業とのつながりや就職情報	Pearson の相関係数	0.323	0.284	0.222	0.247	0.170	0.190	0.205	0.227	0.317	
	有意確率 (両側)	0.000	0.000	0.000	0.000	0.007	0.003	0.001	0.000	0.000	
	N	247	248	248	248	248	248	245	248	247	
時間の自由や余裕	Pearson の相関係数	0.267	0.331	0.306	0.257	0.266	0.198	0.184	0.313	0.260	
	有意確率 (両側)	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.002	0.004	0.000	0.000	
	N	248	248	248	248	248	248	246	248	248	

“実態評価”のすべての項目が大学全体の評価やコミットメントと関係があることが確認できる。  
特に「研究の充実・面白さ」「研究環境 (設備・スペース・資金)」「指導教員や指導体制」「カリキュラム・授業」  
「学生のケア・サポート」の5項目での評価が、大学全体の評価に結びつく度合いが強い。

## ◆ 貴学（NAIST）に対する個別評価＜研究科別＞



大学の個別の項目に対する評価では、やはり「研究設備・環境」「研究内容・レベル」などの評価が高く、それに「就職」「教育体制」が続いている。評価が最も悪いのは「生活環境」でかなり低い評価になっているが、「学生サポート」や「社会的評価」でも否定的な評価をする傾向が強くなっている。

[研究科] 別では、「学内の雰囲気」「学生サポート」「教育体制」「研究環境・設備」「研究内容・レベル」の5項目で『情報科学研究科』が最も高く、『物質創成科学研究科』が最も低くなっている。また「就職」で研究科間の差が一番大きく、高い順に『情報科学研究科』『物質創成科学研究科』『バイオサイエンス研究科』となっている。



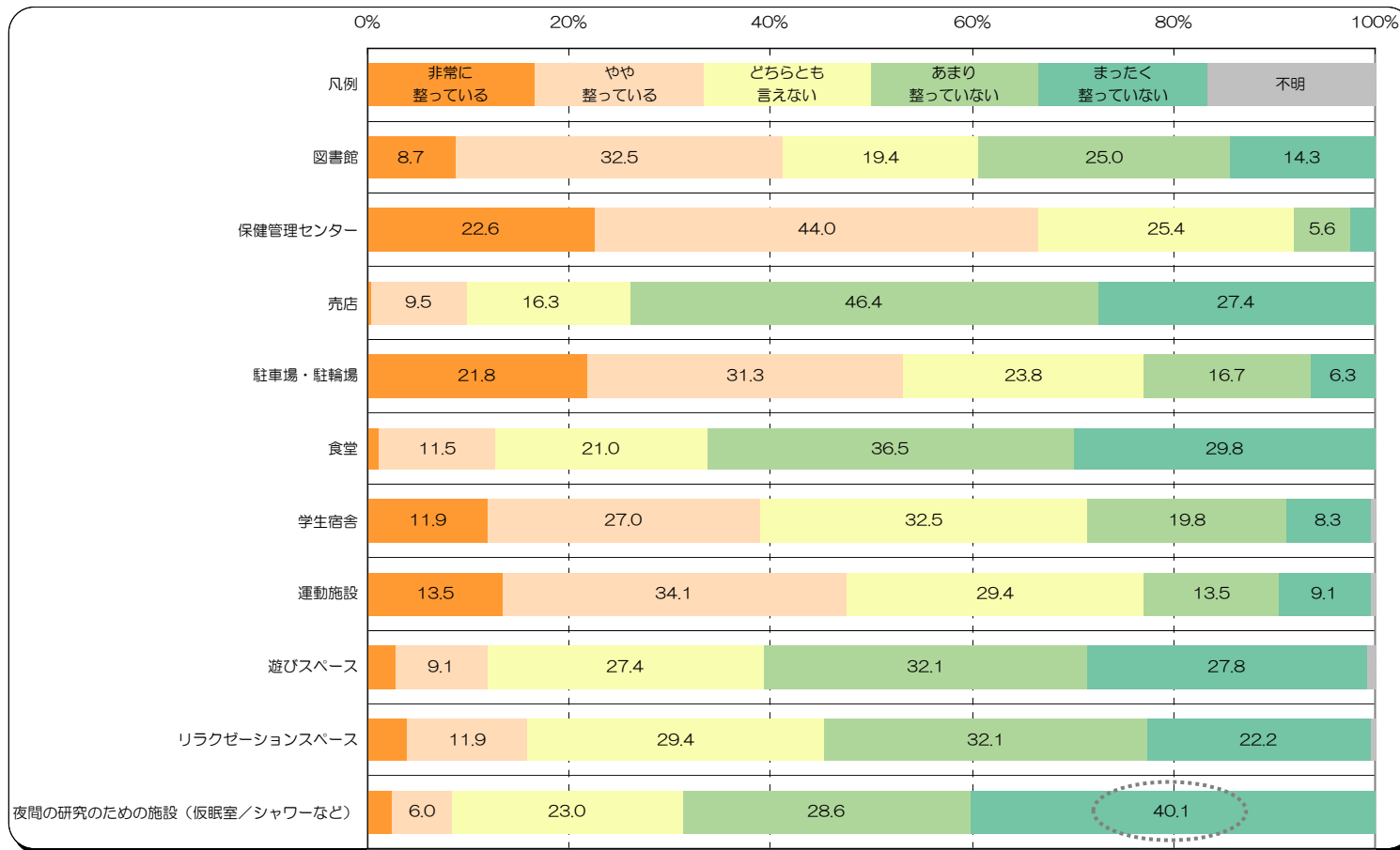
## ◆ 実態評価（合成変数）と個別評価との相関

数値	=0.4以上
数値	=0.3以上0.4未満
数値	=0.2以上0.3未満

		Q4 個別評価								
		研究内容・レベル	研究設備・環境	教育体制	学生サポート	学内の雰囲気	生活環境	就職	社会的評価	
Q10-1 実態評価	研究の充実・面白さ	Pearson の相関係数	0.604	0.296	0.433	0.201	0.373	0.074	0.231	0.264
		有意確率 (両側)	0.000	0.000	0.000	0.001	0.000	0.244	0.000	0.000
		N	251	252	251	252	252	251	251	251
	研究環境 (設備・スペース・資金)	Pearson の相関係数	0.579	0.591	0.438	0.239	0.406	0.085	0.274	0.282
		有意確率 (両側)	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.182	0.000	0.000
		N	250	251	250	251	251	250	250	250
	指導教員や指導体制	Pearson の相関係数	0.637	0.216	0.690	0.178	0.387	0.146	0.308	0.285
		有意確率 (両側)	0.000	0.001	0.000	0.005	0.000	0.021	0.000	0.000
		N	251	251	250	251	251	251	251	251
	カリキュラム・授業	Pearson の相関係数	0.463	0.224	0.506	0.363	0.389	0.203	0.357	0.317
		有意確率 (両側)	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.001	0.000	0.000
		N	250	250	249	250	250	250	250	250
	学生のケア・サポート	Pearson の相関係数	0.444	0.181	0.473	0.462	0.460	0.207	0.400	0.347
		有意確率 (両側)	0.000	0.004	0.000	0.000	0.000	0.001	0.000	0.000
		N	248	249	248	249	249	248	248	248
	情報入手	Pearson の相関係数	0.342	0.243	0.276	0.214	0.270	0.153	0.206	0.301
		有意確率 (両側)	0.000	0.000	0.000	0.001	0.000	0.016	0.001	0.000
		N	248	249	248	249	249	248	248	248
交流の機会	Pearson の相関係数	0.226	0.102	0.238	0.280	0.369	0.187	0.241	0.288	
	有意確率 (両側)	0.000	0.108	0.000	0.000	0.000	0.003	0.000	0.000	
	N	251	251	250	251	251	251	251	251	
企業とのつながりや就職情報	Pearson の相関係数	0.240	0.127	0.327	0.312	0.259	0.056	0.592	0.337	
	有意確率 (両側)	0.000	0.046	0.000	0.000	0.000	0.380	0.000	0.000	
	N	248	249	248	249	249	248	248	248	
時間の自由や余裕	Pearson の相関係数	0.342	0.197	0.277	0.285	0.309	0.203	0.245	0.225	
	有意確率 (両側)	0.000	0.002	0.000	0.000	0.000	0.001	0.000	0.000	
	N	249	249	248	249	249	249	249	249	

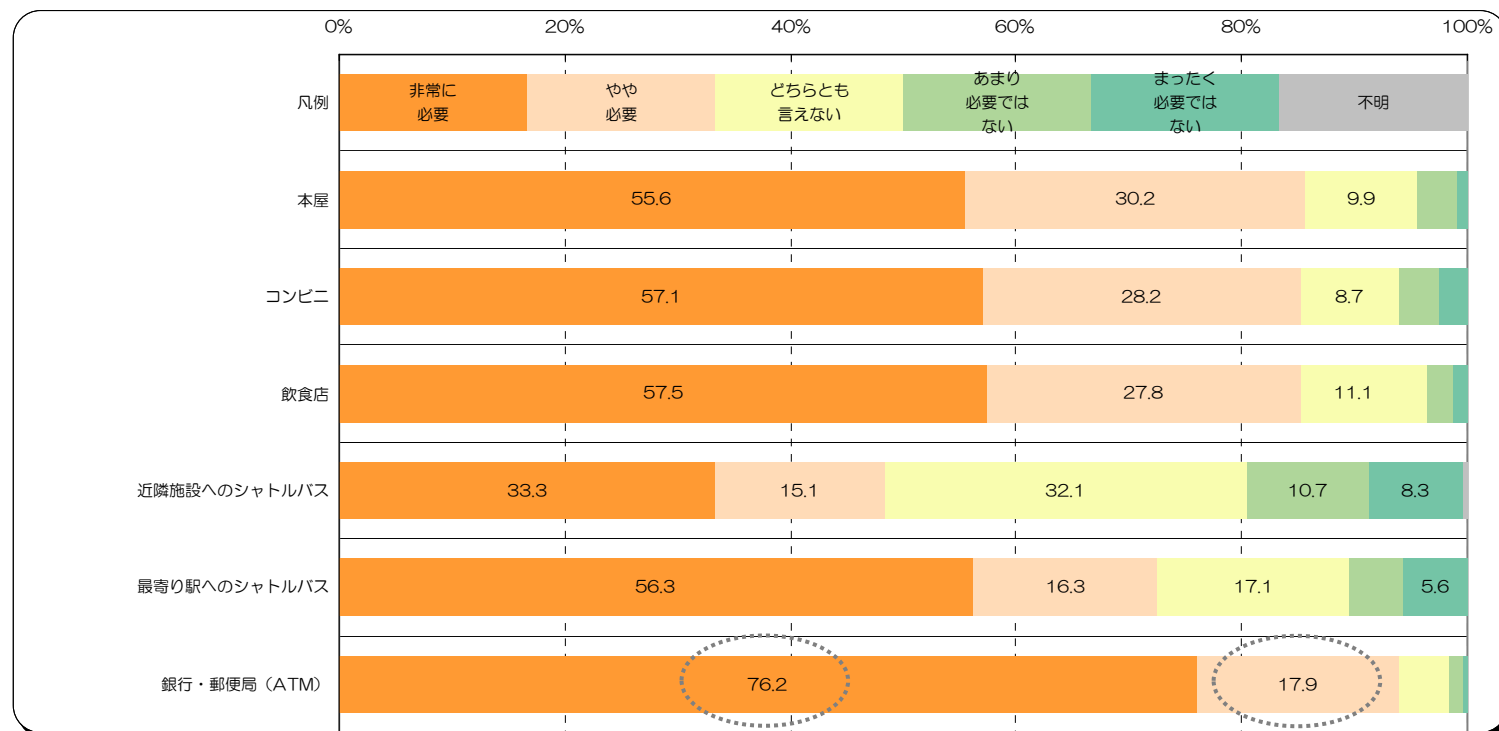
「研究内容・レベル」や「教育体制」の評価はいずれも「研究の充実・面白さ」「研究環境（設備・スペース・資金）」「指導教員や指導体制」「カリキュラム・授業」「学生のケア・サポート」の5項目に関する評価が高いことで、特に良い評価が得られている。「個別評価」の「研究設備・環境」は「実態評価」の「研究環境（設備・スペース・資金）」とだけ強い関係が見られる。また「学生のケア・サポート」に対する実態の評価はいろいろな評価に影響があり、「研究内容・レベル」「教育体制」「学生サポート」「学内の雰囲気」「就職」の評価につながる傾向が強くなっている。

◆ 学内生活関連施設



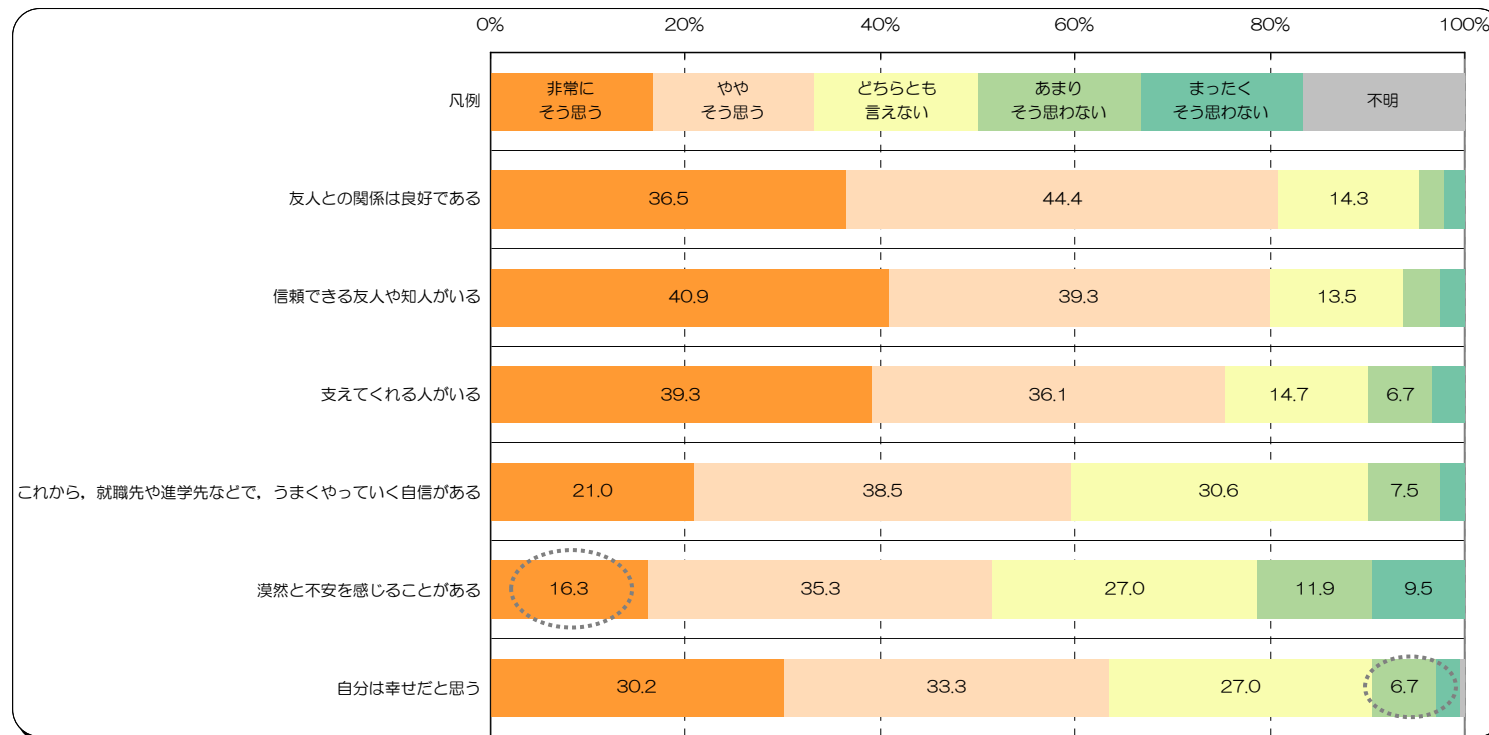
生活関連施設で評価が高いのは『保健管理センター』と『駐車場・駐輪場』でいずれも「非常に整っている」「やや整っている」を合わせると、5割以上の方が“整っている”と回答している。  
 しかしながら、それ以外の施設では“整っている”という人が半数に満たず、中でも『売店』『食堂』『夜間の研究のための施設（仮眠室／シャワーなど）』では「まったく整っていない」「あまり整っていない」という人が合わせて6割を超えている。  
 また、「まったく整っていない」という人が最も多いのは『夜間の研究のための施設（仮眠室／シャワーなど）』で、不満を感じる人が多いことが伺える。

## ◆ 学外生活関連施設



学外での生活関連施設として必要な度合いを聞いたところ、用意した項目はいずれも「必要だ」と思う人が多いことがわかった。中でも『銀行・郵便局(ATM)』については「非常に必要」という人が≪76.2%≫と非常に多く、「やや必要」を合わせると、ほとんどの学生が“必要だ”との認識を示している。

## ◆ QOSL



『友人との関係は良好である』『信頼できる友人や知人がいる』『支えてくれる人がいる』の3項目で「非常にそう思う」とする人が4割前後、「ややそう思う」を合わせるとおおむね8割となり、人間関係については良好な人が多いと言える。

『これから、就職先や進学先などで、うまくやっていく自信がある』で「非常にそう思う」という人はやや少なくなって2割程度だが、「ややそう思う」を合わせると約6割の人は“自信がある”ことになる。

『漠然と不安を感じることもある』に対して≪16.3%≫の人が「非常にそう思う」と回答しているのが気になるが、『自分は幸せだと思う』に対しては、「非常にそう思う」又は「ややそう思う」人が合わせて6割を越えており、「まったくそう思わない」あるいは「あまりそう思わない」人を合わせても1割以下となっている。